

## 史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設の広場の利用について

ガイダンス施設の北側と東側は多目的広場や緑地広場となっています。日常的な憩いの場として、また散策や歴史学習といった歴史や文化に親しめる場として昨年整備しました。2つの広場の間には、発掘調査の成果に基づき、寺域の南辺を区画する南辺築地と大溝を植栽とくぼみで標示しています。広場を団体で利用する際には、文化財課までお問い合わせください。

なお、広場のご利用にあたり、以下のことはできませんのでご了承ください。

- ・喫煙や火の使用
  - ・車両の乗り入れ(自転車を含む)
  - ・ボール等を使用した本格的な運動
  - ・地面を掘削する行為
  - ・その他、利用者に迷惑となる行為
- ※広場内でテントや器材の設置等を行う場合は、別途手続きが必要です。



寺域の南辺築地跡を示す植栽の奥には広い緑地広場

## 今年も続々！出前講座・出前授業

仙台市文化財課では、大昔の土器や石器、瓦などをはじめ昭和の民俗資料などを活用した出前講座・出前授業を実施しています。例年、たくさんのお申込みをいただいております。今年度も続々と実施しています。講義の形式から、実際に遺跡などを歩いて巡るフィールドワーク形式まで、ご要望に応じて文化財課職員が講師としてうかがいます。新しい仙台の魅力と一緒に感じてみませんか？



講義で！



授業で！



フィールドワークで！

問合せ先：文化財課 整備活用係  
TEL：022-214-8893

## チェック！平成30年度文化財イベントスケジュール

### ○仙名城跡夏休み親子石垣見学会

日時：平成30年7月28日(土)・8月18日(土)  
場所：仙名城跡

### ○第68回文化財展

日時：平成30年8月21日(火)～10月8日(月)  
前期展示：8月21日～9月17日「発掘された仙台」  
後期展示：9月19日～10月8日「新たに指定された文化財」  
場所：東北電力グリーンプラザ

### ○第8回城下町せんだい日本伝統文化フェア

日時：平成31年1月19日(土)  
場所：せんだいメディアテーク オープンスクエア

イベントの詳細等は市政だよりなどでお知らせします。

### ○第69回文化財展

日時：平成30年12月5日(水)～9日(日) エンメンケン  
場所：仙台メディアテーク

### ○第32回民俗芸能のつどい

日時：平成31年2月9日(土)  
場所：日立システムズホール仙台



エンメンケン

遺跡見学会など最新の文化財関連情報は仙台市文化財課のホームページで!!  
<https://www.city.sendai.jp/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/bunkazai/>

# 文化財 せんだい

No.121  
平成30年(2018年)7月発行  
仙台市教育委員会文化財課  
仙台市青葉区上杉一丁目5-12  
上杉分庁舎 10階  
〒980-0011 Tel:022-214-8893

# 文化財 に登録されました！祝

## じょうぎによらいさいほうし 定義如来西方寺

西方寺(青葉区大倉)は、平清盛・重盛に仕えた平貞能が、平家没落後にこの地に隠れて平家一門の供養を行い、その没後、貞能の墳墓上に小堂を建てて阿弥陀如来像を安置したことを起源として、宝永3年(1706)に「極楽山西方寺」として開創されたと伝えられています。

山裾に位置する古くからの境内には、昭和初期に整備された建築群が立ち並び、統一感を持った境内景観が形成されています。これらの建築群は、花輪喜久蔵をはじめとする気仙大工によって、設計・建築されました。このたび、境内の5棟の建物が平成30年3月27日に国の登録有形文化財になりましたので、ご紹介します。

「御廟貞能堂」は、貞能の墳墓上に建てられたと伝えられる小堂を起源とする建物です。昭和2年(1927)建築の六角堂で、正面の繊細な彫刻が特徴的です。平成11年に現本堂が建設されるまで、本堂として使用されてきました。貞能堂の前に立つ「御守授所」も昭和2年頃の建築で、小振りながら本格的な造りがなされています。「鐘楼堂」は昭和7年、「手水舎」は昭和8年の建築です。天井仕上げや虹梁の絵様などに類似性が見られる装飾的な建物です。「山門」は昭和7年建築の二重門です。多くの彫刻で飾られ、通路の猿の造形など創意にあふれており、大工の技量が発揮されています。



西方寺境内の様子



西方寺山門通路の彫刻



ヨヘエケン

「定義如来」「定義さん」と呼ばれて有名なね。定義の地名は、この地を開いた「貞能」を「定義」と書き改め、これを音読して「じょうぎ」、さらに「じょうげ」と変化したものと言われているんだ。

### 気仙大工とは？

岩手県気仙地方出身の大工のことです。住宅から社寺建築までを手掛ける高度な技術を持ち、江戸時代から昭和にかけて、北海道から東京の広い範囲で活躍しました。

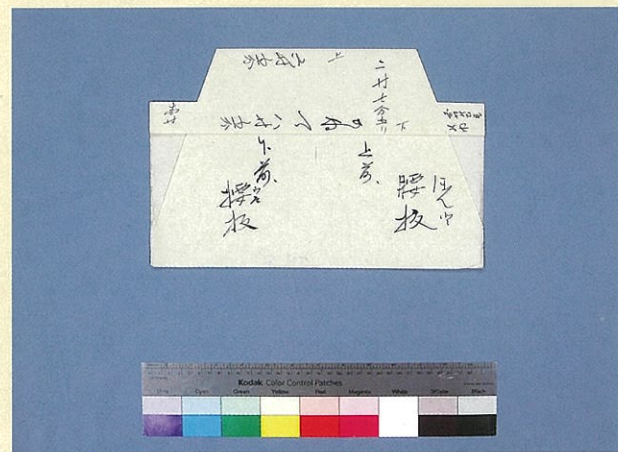
# 裁縫教育資料の調査を行いました！

平成26～29年度に、国の補助を受けて、「<sup>ほうざわ</sup>朴沢学園裁縫教育資料史料調査事業」を実施しました。学校法人朴沢学園が所有する裁縫教育に関わる約4,000点の資料を整理・調査し、報告書としてまとめました。明治時代中期から昭和時代中期にかけて同学園で裁縫を学んでいた59名の卒業生が寄贈した資料を対象としています。

反物を裁つ練習教材である「<sup>けいひき</sup>野引」や、衣服のパーツの組立を学ぶ「<sup>たぢきり</sup>裁切」や「<sup>ぶぶんぬい</sup>部分縫」など、独特の資料が多く含まれており、和服や洋服、頭巾などを仕立てるプロセスを具体的に追うことができます。

そのため、今回の調査事業では、こうした裁縫技術の習得段階に応じた資料分類表を独自に作成し、資料群の全体像をつかむことに努めました。

今回の事業の成果を受けて、裁縫教育に係る資料の再発見や整理が進み、近代の裁縫教育の展開が具体的に明らかになることが期待されます。



はかまこしだてけいひき  
袴腰立野引

野引とは紙を布に見立てて、裁ち方や縫い方を図示したものです。この資料から、袴の腰板部分だけを特に力を入れて学んできたことがわかります。



あとにはかまさいほうりながた  
男袴裁縫雛形

上部の台形の部分を腰板と呼びます。腰板の作成には、腰立野引により学んだことが活かされています。

腰板とは、袴をはいたときに、ちょうど腰にあたる部分のこと。紙の芯が入っているから硬いし、模様の合わせ方にも気を付けないといけないから、縫うのが難しい部分なの！

めごちゃん



調査成果をまとめた報告書は、市内の図書館にあります。仙台市教育委員会のホームページでも公開しているよ！

まさむねくん



朴沢学園は、現在の明成高等学校の前身にあたり、明治12年(1879)に朴澤<sup>みよじ</sup>三代治により、良覚院丁一番地(現在の青葉区一番町二丁目)に創設された女子の裁縫学校「<sup>しゅうそうしじゆく</sup>松操私塾」として始まりました。卒業生は全国各地の学校や私塾で裁縫を教え、近代女子教育に大きな役割を果たしました。授業で使われた掛図や教科書類は、平成23年に市の有形文化財(歴史資料)に指定されています。

# 説明板を新設しました！

## ○仙台城大手門跡

設置場所 仙台城大手門脇櫓前

仙台城の大手門は桁行(けたゆき：横幅)約19.7メートル、梁間(はりま：奥行)約6.8メートル、高さ約12.5メートルもある全国的にも最大級の城門でした。金箔押し飾り金具を用いた豪壮な大手門は戦前には脇櫓とともに国宝に指定されていましたが、昭和20年(1945年)の仙台空襲で惜しくも焼失しました。



## ○仙台藩奉行所跡

設置場所 仙台市二日町分庁舎前、仙台国際ホテル・SS30前

仙台城下の町人町の行政全般を預かる町奉行は、城下町建設期より置かれ、当初は地域割りごとに奉行がいましたが、2人の奉行の月番制となりました。町奉行を務める藩士の屋敷で事務を行う役宅制が採られていました。嘉永年間(1848～55)以降は、仙台城下を南と北に分けて、仙台市二日町分庁舎前に北の町奉行所が、仙台国際ホテル・SS30前に南の町奉行所がありました。



## ○郡山遺跡

設置場所

仙台市太白区郡山3丁目(郡山中学校より北に200m)

郡山遺跡は1300年前の飛鳥～奈良時代(7世紀後半から8世紀初め)にかけての官衙(役所)跡です。郡山遺跡はI期官衙が造られ、その後I期官衙を壊して同じ場所にII期官衙へと造り替えられています。郡山遺跡は、規模の大きさや施設の構成に加え、営まれた年代から見て、I期官衙は当初陸奥国における城柵として造られ、後のII期官衙は多賀城の前身施設となる陸奥国の国府として造営されたと考えられます。

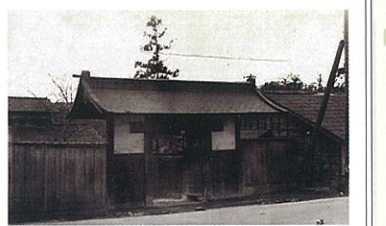


## 「明治150年」第1回

平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から150年の年に当たります。明治時代、近代国家への第一歩を踏み出した日本は、多岐にわたる近代化への取組を行い、国の基本的な形を築き上げていきました。改めて明治期を振り返り、将来につなげていくために、今年度、日本国内各所で、様々な取組が行われています。そこで本誌では、市内にある明治期関連文化財を紹介いたします。

### ◇松の井屋敷【本光院(陸奥仙台藩第11代藩主伊達育義夫人生母)宅跡】

大政奉還後、仙台藩では、新政府につくべきか、幕府につくべきかが大きな議論となります。鳥羽伏見の開戦で、朝廷から奥羽諸藩へ、援軍と会津の松平容保を討つよう命がくだります。その際、奥羽25藩の重臣が会合し、建白書に調印したり、同盟書を取り交わした場所が青葉区片平丁にあった松の井屋敷です。戊辰の役では奥羽同盟の本部が置かれました。今はマンションが建っていますが、仙台・東北の行く末を決めた場だったのです。



松の井屋敷  
(資料提供：仙台市戦災復興記念館)